株式会社ナガセ

NEWS RELEASE

報道関係者各位

2026 年 11 月 27 日
株式会社ナガセ
東進ハイスクール・東進衛星予備校

【2026 東進調査②】 2026 年ダブル合格者の進学先分析

「明青立法中」は明治が大差で首位

青山学院と立教は僅差。9年分の進学先データで見える変化とは？

東進ハイスクール・東進衛星予備校などを運営する株式会社ナガセ（本社：東京都武蔵野市、代表取締役会長 CEO 永瀬昭幸、代表取締役社長 COO 渋川哲矢）は、2026 年の「ダブル合格者進学先分析」を実施しました。今回は第2弾として「明青立法中（明治大学・青山学院大学・立教大学・中央大学・法政大学）」のデータを発表いたします。

「ダブル合格者進学先分析」は、2つの大学の両方に合格した受験生が、実際にどちらに進学したかを示す独自調査です。志願者数や偏差値だけでは測れない大学の実力・人気を映す指標のひとつとして、2018 年より分析を行っています。日本全国に 10 万人超の高校生が在籍し、多くの受験生の合格大学・進学大学情報を持つ東進ならではの分析データです。

大学ごとの比較では、明治が9年連続でトップ

対 立教・中央は8割、青山学院は9割、法政はほぼ 10 割が明治を選択

首都圏の上位私立大学として人気の高い「明青立法中」。今回は、その5大学の中でダブル合格をして進学した場合にどちらが選ばれているかを比較しました。大学ごとに 10 通りの比較ができますが、まず紹介する【表1】は、明治と他4大学のダブル合格者の進学先をまとめたデータです。

明治は、ダブル合格調査を開始以来9年連続で「明青立法中」のトップとなっています。2026 年は、青山学院に対して 90.7%と調査開始以来の最高を記録したほか、立教に対して 79.2%、法政に対して 99.1%、中央に対して 80.4%、と、高い割合で選ばれていることがわかります。調査が始まった 2018 年と比較すると、いずれの大学に対しても明治の進学比率が高まっています。

【表1】ダブル合格したらどちらを選ぶ？

年度	明治	青学
2018年	80.0%	20.0%
2019年	82.6%	17.4%
2020年	81.6%	18.4%
2021年	79.8%	20.2%
2022年	86.2%	13.8%
2023年	83.0%	17.0%
2024年	86.7%	13.3%
2025年	87.8%	12.2%
2026年	90.7%	9.3%

年度	明治	立教
2018年	65.7%	34.3%
2019年	71.3%	28.7%
2020年	79.5%	20.5%
2021年	76.6%	23.4%
2022年	81.9%	18.1%
2023年	76.0%	24.0%
2024年	84.8%	15.2%
2025年	87.9%	12.1%
2026年	79.2%	20.8%

年度	明治	法政
2018年	98.7%	1.3%
2019年	98.4%	1.6%
2020年	99.1%	0.9%
2021年	98.2%	1.8%
2022年	98.8%	1.2%
2023年	98.4%	1.6%
2024年	98.9%	1.1%
2025年	98.6%	1.4%
2026年	99.1%	0.9%

年度	明治	中央
2018年	74.3%	25.7%
2019年	77.3%	22.7%
2020年	81.0%	19.0%
2021年	82.3%	17.7%
2022年	84.3%	15.7%
2023年	77.9%	22.1%
2024年	78.6%	21.4%
2025年	77.2%	22.8%
2026年	80.4%	19.6%

接戦の青山学院と立教。近年は6年連続で青山学院
2021 年以降は、明治、青山学院、立教、中央、法政の並び

その他の6つの組み合わせの【表2】も合わせて見てみると、2021 年以降は、明治、青山学院、立教、中央、法政という順で選ばれていることがわかります。しかし、【表1】の明治との比較では立教、中央が青山学院より進学比率が高めであるなど、単純にこれが大学の順位を表すというわけではありません。

そして注目すべきは、青山学院と立教が近年接戦を繰り広げている点です。青山学院と立教の両方に合格した場合の進学先は、2018～2020 年は立教が上回っていましたが、2021 年以降は青山学院が6年連続で上回っています。

2021 年は、青山学院が共通テスト必須化や個別試験での小論文導入など、大きな入試改革を行った年です。志願者数は一時減少しましたが、その年のダブル合格では青山学院を選ぶ割合が 64.0%に上昇しました。入試改革を経て志願意欲の高い受験生の比率が高まったことが、背景のひとつと考えられます。前回の早慶のダブル合格調査においても、早稲田の入試改革の影響が見られました（参考：【2026 東進調査①】2026 年ダブル合格者の進学先分析 同系統学部比較 早慶で早稲田が「9戦全勝」）。

とはいえ、2026 年は青山学院 51.0%、立教 49.0%と、差はわずか 2.0 ポイントです。立教は前年から 4.6 ポイント伸ばしたほか、明治や中央に対しても進学比率を高めています。立教は、「明青立法中」で女子学生比率が最も高く、多様な入学者選抜を行っています。来年以降のダブル合格者の進学先がどうなるのか、引き続き注目したいポイントです。

【表2】ダブル合格したらどちらを選ぶ？

年度	青学	立教
2018年	38.6%	61.4%
2019年	45.9%	54.1%
2020年	48.7%	51.3%
2021年	64.0%	36.0%
2022年	50.5%	49.5%
2023年	51.4%	48.6%
2024年	50.5%	49.5%
2025年	55.6%	44.4%
2026年	51.0%	49.0%

年度	青学	中央
2018年	79.2%	20.8%
2019年	73.6%	26.4%
2020年	72.7%	27.3%
2021年	77.2%	22.8%
2022年	74.6%	25.4%
2023年	68.1%	31.9%
2024年	66.1%	33.9%
2025年	71.6%	28.4%
2026年	73.5%	26.5%

年度	青学	法政
2018年	91.6%	8.4%
2019年	92.9%	7.1%
2020年	90.3%	9.7%
2021年	92.3%	7.7%
2022年	96.7%	3.3%
2023年	95.9%	4.1%
2024年	95.6%	4.4%
2025年	94.7%	5.3%
2026年	97.1%	2.9%

年度	立教	中央
2018年	85.5%	14.5%
2019年	75.6%	24.4%
2020年	73.1%	26.9%
2021年	70.6%	29.4%
2022年	80.6%	19.4%
2023年	70.4%	29.6%
2024年	62.5%	37.5%
2025年	70.3%	29.7%
2026年	82.9%	17.1%

年度	立教	法政
2018年	91.4%	8.6%
2019年	89.6%	10.4%
2020年	92.2%	7.8%
2021年	91.4%	8.6%
2022年	92.9%	7.1%
2023年	94.0%	6.0%
2024年	90.5%	9.5%
2025年	92.5%	7.5%
2026年	90.4%	9.6%

年度	中央	法政
2018年	77.0%	23.0%
2019年	80.4%	19.6%
2020年	89.0%	11.0%
2021年	67.4%	32.6%
2022年	77.6%	22.4%
2023年	72.7%	27.3%
2024年	78.1%	21.9%
2025年	80.7%	19.3%
2026年	85.8%	14.2%

同系統学部対決も明治が強いが、法学部系は中央・法が首位
経済学部系は、明治・政治経済が 100％

次に、同じ系統の学部同士でダブル合格した場合の進学先を見てみましょう。なお、組み合わせによっては母数が小さいものを含みます。

【表3】の法学部系を見ると、中央・法が明治、青山学院、立教、法政の各法学部との比較で、4大学すべてから高い割合で選ばれています。【表4】の経済学部系では、明治・政治経済が他の4大学の経済学部と比較した際に選ばれる割合が 100.0%となりました。同様に、【表5】の商・経営学部系、【表6】の文学部系、【表7】の理系でも、明治が他大学の同系統学部との比較で上回りました。その中で、立教・経営が明治・経営と50.0%で並び、健闘しています。また、2026 年 4 月に理工学部を3学部に再編した中央は、理工系3学部として、立教・理、青山学院・理工、法政・理工のいずれとの比較でも上回りました。

【表3】 法学部系　ダブル合格進学先(2026)

大学	学部	進学率	進学率	大学	学部
中央	法	73.0%	27.0%	明治	法
中央	法	100.0%	0.0%	青山学院	法
中央	法	83.3%	16.7%	立教	法
中央	法	96.2%	3.8%	法政	法
明治	法	92.9%	7.1%	立教	法
明治	法	100.0%	0.0%	青山学院	法
明治	法	95.2%	4.8%	法政	法
青山学院	法	60.0%	40.0%	立教	法
青山学院	法	100.0%	0.0%	法政	法
立教	法	83.3%	16.7%	法政	法

【表4】 経済学部系　ダブル合格進学先(2026)

大学	学部	進学率	進学率	大学	学部
明治	政治経済	100.0%	0.0%	青山学院	経済
明治	政治経済	100.0%	0.0%	立教	経済
明治	政治経済	100.0%	0.0%	中央	経済
明治	政治経済	100.0%	0.0%	法政	経済
立教	経済	75.0%	25.0%	青山学院	経済
立教	経済	100.0%	0.0%	中央	経済
立教	経済	100.0%	0.0%	法政	経済
青山学院	経済	100.0%	0.0%	中央	経済
青山学院	経済	100.0%	0.0%	法政	経済
中央	経済	88.2%	11.8%	法政	経済

【表5】 商・経営学部系　ダブル合格進学先(2026)

大学	学部	進学率	進学率	大学	学部
明治	商	83.3%	16.7%	明治	経営
明治	商	60.0%	40.0%	立教	経営
明治	商	90.9%	9.1%	青山学院	経営
明治	商	100.0%	0.0%	法政	経営
明治	経営	50.0%	50.0%	立教	経営
明治	経営	100.0%	0.0%	青山学院	経営
立教	経営	66.7%	33.3%	青山学院	経営
立教	経営	100.0%	0.0%	中央	商
立教	経営	100.0%	0.0%	法政	経営
青山学院	経営	87.5%	12.5%	中央	商
青山学院	経営	100.0%	0.0%	法政	経営
中央	商	58.3%	41.7%	法政	経営

【表6】 文学部系　ダブル合格進学先(2026)

大学	学部	進学率	進学率	大学	学部
明治	文	62.5%	37.5%	立教	文
明治	文	73.3%	26.7%	青山学院	文
明治	文	96.0%	4.0%	中央	文
明治	文	100.0%	0.0%	法政	文
立教	文	63.6%	36.4%	青山学院	文
立教	文	100.0%	0.0%	中央	文
立教	文	100.0%	0.0%	法政	文
青山学院	文	100.0%	0.0%	中央	文
青山学院	文	100.0%	0.0%	法政	文
中央	文	71.4%	28.6%	法政	文

【表7】 理系学部　ダブル合格進学先(2026)

大学	学部	進学率	進学率	大学	学部
明治	総合数理	72.7%	27.3%	明治	理工
明治	総合数理	80.0%	20.0%	中央	理工系3学部
明治	総合数理	100.0%	0.0%	立教	理
明治	総合数理	100.0%	0.0%	青山学院	理工
明治	総合数理	100.0%	0.0%	法政	情報科学
明治	理工	71.4%	28.6%	中央	理工系3学部
明治	理工	80.0%	20.0%	立教	理
明治	理工	94.4%	5.6%	青山学院	理工
明治	理工	100.0%	0.0%	法政	理工
明治	農	100.0%	0.0%	法政	生命科学
中央	理工系3学部	55.6%	44.4%	立教	理
中央	理工系3学部	83.3%	16.7%	青山学院	理工
中央	理工系3学部	90.9%	9.1%	法政	理工
立教	理	50.0%	50.0%	青山学院	理工
立教	理	66.7%	33.3%	法政	理工
青山学院	理工	88.9%	11.1%	法政	理工

「明青立法中」合格者は実学志向？「早慶」との違い
経済・経営・商の学内併願ダブル合格データ

同じ大学で複数学部を受験してダブル合格するケースも見てみましょう。経済・経営・商は学内併願の多い学部群です。企業経営やビジネスの実務について学ぶ経営・商学部、国や社会という大きな視点で俯瞰的に経済の仕組みを学ぶ経済学部と、大きく分けることができます。

【表８】は、各大学における経済・経営・商で併願が最も多い組み合わせです。これを見ると、青山学院・立教・法政・中央では、経済よりも商・経営が高い割合で選ばれています。明治は商と経営の組み合わせで、商が 82.5%でした。「明青立法中」では、経済理論よりもビジネス実学志向の合格者の方が多いと考えられます。

一方、「早慶」で同じ比較をしてみた【表９】では、早慶ともに９割以上が経済系を選んでおり、「明青立法中」とは大きく異なる結果となっています。早稲田・政治経済、慶應・経済が看板学部ということもありますが、「早慶」の学生の中には、経済・社会の問題を解決するための経済理論に裏付けられた思考を武器に戦う、大手コンサルティングファームや、メガバンクをはじめとする大手金融・保険会社、さらには国家公務員等を目指したいという学生が多いと推察できます。

なお、明治については看板学部である政治経済を加えて比較したところ、政治経済と商では 62.2%、政治経済と経営では 76.5%で政治経済が選ばれており、経済系が多くなっています。しかし、早慶と比べると経営・商の割合は高いと言えるでしょう（【表 10】参照）。

【表8】学内併願 ダブル合格進学先（商・経営vs経済）
直近6年計（2021-26）

大学	学部	進学率	進学率	大学	学部
明治	商	82.5%	17.5%	明治	経営
青山学院	経営	72.9%	27.1%	青山学院	経済
立教	経営	92.5%	7.5%	立教	経済
法政	経営	83.8%	16.2%	法政	経済
中央	商	67.2%	32.8%	中央	経済

【表9】早慶　学内併願ダブル合格（経済・政経vs商）
直近6年計（2021-26）

大学	学部	進学率	進学率	大学	学部
早稲田	政治経済	97.3%	2.7%	早稲田	商
慶應義塾	経済	92.2%	7.8%	慶應義塾	商

【表10】明治大学　学内併願ダブル合格
直近6年計（2021-26）

大学	学部	進学率	進学率	大学	学部
明治	政治経済	62.2%	37.8%	明治	商
明治	政治経済	76.5%	23.5%	明治	経営

上智と明治、法政と東洋など…別大学群との比較
偏差値が同程度の場合も、大学群で進学比率に差

大学群をまたぐダブル合格も見てみましょう。【表 11】は、明治と「早慶」の早稲田・慶應義塾、「上理」の上智・東京理科、法政と「成成明学」の成蹊・成城・明治学院、「日東駒専」の東洋など、さまざまな組み合わせの結果をまとめたものです。

主なものを紹介すると、早稲田と明治では、2018～2026 年のすべての年で早稲田が 98%以上。上智と明治では、年により差はあるものの 2026 年は上智が 96.6%と大差です。法政は、成蹊に対して 100%、東洋に対して 99.2%と、高い割合で法政が選ばれています。

例えば上智と明治は東進偏差値でも近い水準にありますが、今回の調査では大学群で進学比率に大きな差があることがわかりました。

【表11】ダブル合格したらどちらを選ぶ？（大学群をまたぐ比較）

年度	早稲田	明治
2018年	100.0%	0.0%
2019年	99.1%	0.9%
2020年	99.3%	0.7%
2021年	99.5%	0.5%
2022年	98.7%	1.3%
2023年	99.1%	0.9%
2024年	99.6%	0.4%
2025年	99.1%	0.9%
2026年	99.0%	1.0%

年度	慶應	明治
2018年	100.0%	0.0%
2019年	100.0%	0.0%
2020年	99.0%	1.0%
2021年	100.0%	0.0%
2022年	99.8%	0.2%
2023年	99.0%	1.0%
2024年	100.0%	0.0%
2025年	98.4%	1.6%
2026年	100.0%	0.0%

年度	上智	明治
2018年	99.2%	0.8%
2019年	98.9%	1.1%
2020年	95.1%	4.9%
2021年	95.0%	5.0%
2022年	99.2%	0.8%
2023年	99.1%	0.9%
2024年	96.3%	3.7%
2025年	89.6%	10.4%
2026年	96.6%	3.4%

年度	早稲田	上智
2018年	95.3%	4.7%
2019年	95.8%	4.2%
2020年	97.3%	2.7%
2021年	95.4%	4.6%
2022年	96.8%	3.2%
2023年	97.2%	2.8%
2024年	98.3%	1.7%
2025年	98.5%	1.5%
2026年	99.1%	0.9%

年度	慶應	上智
2018年	99.4%	0.6%
2019年	98.9%	1.1%
2020年	99.0%	1.0%
2021年	98.8%	1.2%
2022年	97.8%	2.2%
2023年	94.4%	5.6%
2024年	98.1%	1.9%
2025年	99.2%	0.8%
2026年	99.0%	1.0%

年度	東京理	明治
2018年	77.1%	22.9%
2019年	79.5%	20.5%
2020年	79.2%	20.8%
2021年	86.9%	13.1%
2022年	85.8%	14.2%
2023年	85.4%	14.6%
2024年	82.1%	17.9%
2025年	83.1%	16.9%
2026年	82.6%	17.4%

年度	中央	学習院
2018年	40.0%	60.0%
2019年	72.2%	27.8%
2020年	52.4%	47.6%
2021年	81.3%	18.8%
2022年	67.7%	32.3%
2023年	77.4%	22.6%
2024年	76.9%	23.1%
2025年	82.6%	17.4%
2026年	85.0%	15.0%

年度	法政	学習院
2018年	47.7%	52.3%
2019年	77.8%	22.2%
2020年	44.4%	55.6%
2021年	64.5%	35.5%
2022年	50.0%	50.0%
2023年	62.5%	37.5%
2024年	52.8%	47.2%
2025年	64.6%	35.4%
2026年	62.5%	37.5%

年度	法政	明学
2018年	100.0%	0.0%
2019年	96.4%	3.6%
2020年	96.0%	4.0%
2021年	98.1%	1.9%
2022年	98.5%	1.5%
2023年	95.7%	4.3%
2024年	93.8%	6.2%
2025年	96.4%	3.6%
2026年	97.6%	2.4%

年度	法政	成蹊
2018年	96.5%	3.5%
2019年	97.9%	2.1%
2020年	94.2%	5.8%
2021年	98.4%	1.6%
2022年	92.0%	8.0%
2023年	98.5%	1.5%
2024年	100.0%	0.0%
2025年	100.0%	0.0%
2026年	100.0%	0.0%

年度	法政	成城
2018年	96.3%	3.7%
2019年	96.6%	3.4%
2020年	100.0%	0.0%
2021年	100.0%	0.0%
2022年	93.1%	6.9%
2023年	100.0%	0.0%
2024年	100.0%	0.0%
2025年	98.4%	1.6%
2026年	100.0%	0.0%

年度	法政	東洋
2018年	100.0%	0.0%
2019年	99.3%	0.7%
2020年	97.5%	2.5%
2021年	98.9%	1.1%
2022年	98.9%	1.1%
2023年	100.0%	0.0%
2024年	99.5%	0.5%
2025年	99.4%	0.6%
2026年	99.2%	0.8%

年度	成城	東洋
2018年	93.5%	6.5%
2019年	86.7%	13.3%
2020年	84.6%	15.4%
2021年	90.9%	9.1%
2022年	90.0%	10.0%
2023年	92.9%	7.1%
2024年	90.9%	9.1%
2025年	80.7%	19.3%
2026年	100.0%	0.0%

年度	中央	芝浦工
2018年	93.1%	6.9%
2019年	100.0%	0.0%
2020年	89.5%	10.5%
2021年	89.6%	10.4%
2022年	95.7%	4.3%
2023年	84.2%	15.8%
2024年	90.3%	9.7%
2025年	96.4%	3.6%
2026年	94.4%	5.6%

年度	法政	芝浦工
2018年	78.2%	21.8%
2019年	76.0%	24.0%
2020年	60.8%	39.2%
2021年	74.3%	25.7%
2022年	71.4%	28.6%
2023年	54.4%	45.6%
2024年	36.1%	63.9%
2025年	42.6%	57.4%
2026年	45.8%	54.2%

年度	法政	東京女
2018年	95.5%	4.5%
2019年	91.7%	8.3%
2020年	100.0%	0.0%
2021年	100.0%	0.0%
2022年	94.7%	5.3%
2023年	100.0%	0.0%
2024年	90.5%	9.5%
2025年	91.7%	8.3%
2026年	80.0%	20.0%

入学後の学びの内容・環境を踏まえた大学選びを

今後の新学部・キャンパス移転にも注目

「明青立法中」の５大学は、学部構成や校風、キャンパスの立地、学びの特色は大きく異なります。志望校を選ぶ際は、大学名だけで判断せず実際の学びの内容まで確認したうえで決めることが重要です。

ダブル合格データは、各大学の大きな動きはもちろん、新学部や学部改編、キャンパス移転などでも変動することがあります。例えば、中央・法は 2023 年に都心にキャンパスを移転しました。【表 12】で明治・法とのダブル合格をみると、移転公表後の 2022 年に 74.0%と大きく伸び、移転した 2023 年には 80.8%となりました。

2027 年 4 月には、青山学院の統計データサイエンス学環の新設、中央のスポーツ情報学部の新設や経済学部の再編の予定があります。法政では、2030 年ごろに経済学部のキャンパス移転も計画されています。来年以降のダブル合格データにも注目です。

【表12】中央・法 VS 明治・法
ダブル合格進学率比較

年度	中央・法	明治・法
2021年	58.5%	41.5%
2022年	74.0%	26.0%
2023年	80.8%	19.2%
2024年	85.7%	14.3%
2025年	80.4%	19.6%
2026年	73.0%	27.0%

東進ハイスクール・東進衛星予備校では、今後「関関同立」についても、ダブル合格者進学先分析を発表してまいります。

【株式会社ナガセについて】

1976 年創立。日本最大の民間教育ネットワークを展開するナガセは「独立自尊の社会・世界に貢献する人財」の育成に取り組んでいます。

有名講師陣と最先端の志望校対策で東大現役合格実績日本一の「東進ハイスクール」「東進衛星予備校」、シェア NO.1 の『予習シリーズ』と最新の AI 学習で中学受験界をリードする「四谷大塚」、早期先取り学習で難関大合格を実現する「東進中学 NET」、私大総合・学校推薦型選抜（AO・推薦入試）合格日本一の「早稲田塾」、メガバンク、大手メーカー等の多くの企業研修を担う「東進ビジネススクール」、優れた AI 人財の育成を目指す「東進デジタルユニバーシティ」、いつでもどこでもすべての小学生・中学生が最新にして最高の教育を受けられる「東進オンライン学校」など、幼・小・中・高・大・社会人一貫教育体系を構築しています。

また、東京五輪で競泳個人メドレー2冠の大橋悠依をはじめ、のべ 53 名のオリンピアンを輩出する「イトマンスイミングスクール」は、これからも金メダル獲得と日本競泳界のさらなるレベルアップを目指します。

学力だけではなく心知体のバランスのとれた「独立自尊の社会・世界に貢献する人財を育成する」ためにナガセの教育ネットワークは、これからも進化を続けます。

【本件に関する報道関係者の方からのお問い合わせ先】

株式会社ナガセ　広報部　担当：市村（いちむら）、海老根（えびね）
TEL：0422-44-9001　Mail：pub@toshin.com